

日本式介護の強み整理

ウエルビー アジアへの“輸出”を目指す

コンサルティング会社 ウェルビー(渋谷区、青木正人代表)は、内閣官房の委託を受け、「アジア健康構想実現に向けた高齢者介護の国際競争力に関する基礎調査」を実施する。国内で発達した自立支援型の介護サー



青木代表

ビスやシステムの強みや弱み、特徴などを整理して、アジア各国での価値を分析し、民間事業者のアジア進出に必要な視点・支援策などを明確にする。同時に、日本の介護が抱える課題や優位性なども整理する方針だ。

アジア健康構想は、内閣官房の健康・医療戦略推進本部(本部長＝安倍晋三総理)が中心となっており、日本の介護システムのアジア地域への輸出を

目指すプロジェクト。今年7月に基本方針をまとめ、官民連携のプラットフォームとなる協議会の設置に向けた準備を進めている。協議会では、日本式介護技術・サービスなどの国際標準策定や、各国の制度・文化に関する情報共有、アジア地域内の官民ネットワークの構築などを行う予定だ。

調査事業は基本方針に基づき、輸出する日本的な介護の特徴や、アジア

進出を考える民間介護事業者の課題などを明らかにするものだ。「日本国内で育った介護サービスの強みや弱み、特徴などを、保険制度の枠を越えて振り返るチャンス」(青木代表)と捉える。

「一人ひとりの想いに寄り添った自立支援型の介護」という。調査は、自立支援などで特徴的な取り組みを行う約80事業所にアンケートを依頼。認知症ケアやリハビリ、栄養改善などのうち、海外でも通用するサービスを類型化する。これらのサービスが宗教や文化、商

習慣などが異なるアジア各国でどのような評価を受けるのかを整理する。「介護サービスや仕組みに関しては、アジアの中で日本が先行している。今後、アジア各国で急速に高齢化が進み、それぞれの国の文化や生活習慣にあった独自の介護

チャットで業務効率化

家族との報連相にも

ドアップ
ツケア
ライ

東京と大阪で訪問サービスを展開するグッドライフケア(中央区、小田秀樹代表)は、3年ほど前から社内連絡ツールを電子メールからビジネス

チャットソフトの「チャットワーク」に切り替えた。業務の進捗管理や情報共有の効率化などを実感しているという。同社はほぼすべてのス

サービスや自立支援が得意であるだろう。その基盤となるものを日本の介護サービスから抽出したい」(同)。

今年度中にとりまとめ、方向性を提案する予定だ。

現在では、職員が自らグループを作って社内外の関係者を呼び込み、利

ユーザーの個別事例に対するより良いケアについて、

洛和福祉会

(京都府)

ユートステイ12人。

東京ドームのほど近くで2017年4月の開設に向けて建設が進められている「洛和ヴィラ文京春日」。

設置・運営する社会福祉法人洛和福祉会は、京都府を中心に展開する「洛和会ヘルスケアシステム」のグループだ。中

営。医療と介護の連携の必要性を予測して、90年代後半から介護事業に積極参入。現在は120カ

所以上の事業所を展開している。京都旅行をすれ

保、京都の施設でじつとユニットケアを学ばせた。ようやく運営が落ち着き、2カ所目をと考

職員が、新しい施設でのユニットケアにスムーズに移行できるようワンフロア20人を2つに分けたグループケアの取り組みを始めている。

米倉人美同社訪問看護部長は「留守中の利用者の状況を知らたいという家族に対して、その日の

チャットのイメージ



決算

16

ユニファ

売上高

万(一)

利益13億

0万円の

Q

Q

児介

護休

よう

関係

間に

回と

ント

か?

A

子の

学前の

度に

を限度

す。今

るよう

所定労働

とにな

ンがと

の魅力

の

ント

売上高

万(一)

利益13億

0万円の

家族に

の